

令和5年2月1日

自由民主党 和

代表 橋本 幸一 様


八代市議会自由民主党 和

管外行政視察復命書

視察期間 令和5年1月11日(水)～13日(金)


視察先 沖縄県糸満市～石垣市

参加者

議員 北園 武広 

議員 木村 博幸 

議員 中村 和美 

議員 古嶋 津義 

自由民主党 礎・絆・和 視察所見

議員名【 北園 武広 】

- ◆視察日：令和5年1月11日（水）
- ◆視察先：沖縄県糸満市
- ◆調査項目：農業の振興について、観光・リゾート産業の振興について

(1) 農業の振興について

○農産物の概要

・糸満市の農業は、・・・サトウキビを基幹に、国営地下ダムかんがい整備により、冠水利用が容易に行われるようになったため、施設栽培を中心に多品目生産が特長となっており、ゴーヤ、レタス、ニンジン、パッションフルーツ、小ぎく、肉用牛、マンゴー、きゅうりの8品目は、沖縄県より農林水産戦略品目として拠点産地の認定を受けている

○スマート農業機器導入事業（KDDIとの連携、取組）

・農業分野の課題のひとつである「農作業の効率化」を図るため、小菊農家の夜間帯の電球切れを確認するための見回り作業と、マンゴー農家のハウス内の温度管理を行うための確認作業の時間削減をめざし、KDDIウェブコミュニケーションズの協力のもと、畑の温湿度、照度の異常を探知して農家の携帯に通知する「農作業支援通知システム」の実証実験を平成30年にスタートしている。

○輸送コスト、肥料高騰などに対する補助金制度など

・沖縄県の地理的な条件不利性の改善を通して、直近他県の産地との競争条件の平常化を図るとともに、北部・離島地域における基幹産業である農林水産業の持続的な維持増進を図るため、沖縄県の補助事業を活用されている。

○糸満市の農業の振興についてのまとめ

・糸満北部地域を含む農業水確保及び、下水処理水利用の検討など、地下ダム受益地再編への取組みや、生産力向上・品質向上・競争力向上を図るため近代化施設や優良品種の導入などの、農業生産の充実と観光農業の推進などの施策を伺い、本市農業の振興に繋げるため担い手との意見交換などを実行したいと思います。

(2) 観光及びリゾート産業振興について

○外国船クルーズ（インバウンド）の受入、対策及び誘致などについて

・具体的な事業は行っていない。・行政としては特に問題となる課題はない。

・外国人への対応については、平成31年度に道の駅いとまんへ、Wi-Fiやサイネージを設置や、主要観光施設において、多言語看板の設置などを行っている。

○観光資源の発掘と情報発信について

・令和4年4月にオープンした「シャボン玉石けんくる糸満」は、市のゲートウェイの機能を備えた文化・平和・観光振興センターの複合施設を有している。

・令和2年7月にオープンした「糸満市場いとま〜る」については、糸満市公設市場をリニューアルし、観光施設としての機能を果たしている。

(3) まとめ

糸満市の農林水産業・観光業・商工業においては、国・県・市が連携し、地方創生臨時交付金を活用した事業者支援や、各条例に基づく補助金交付などで、産業の振興や地域経済の活性化を図られていたのが印象に残った。

今回の視察で学んで気づいたことを、本市議会の活動や地域の魅力とにぎわいの創出などの活動に活かしてまいります。

自由民主党 礎・絆・和 視察所見

議員名【 北園 武広 】

◆視察日：令和5年1月12日（木）

◆視察先：沖縄県石垣市

◆調査項目：石垣島における農産物の現状と課題について

市内での消費動向と県外への販売経路の状況について 他

(1) 石垣島における農産物の現状と課題について

○石垣島で栽培される農産物の概要

・石垣島の農業の中心は肉用牛の生産で、亜熱帯の地域特性を活かして、さとうきび、パイン、水稲、葉たばこ、マンゴー等の熱帯果樹、花卉、野菜などの生産が多様に展開されている。農業の構成比率は、肉用牛が60.1%、さとうきび17.3%、パイン4.5%、水稲2.5%となっている。総農家戸数は令和元年度で586戸、内訳は、専業農家296戸、兼業農家290戸である。耕地面積は令和元年度で5,300haとなっていて、その内訳は畑が4,980ha、田が318haである。畑の内訳は、普通畑が49%、牧草地46%、樹園地5%となっており、牧草地面積は県内草地面積の21%を占めている。

○農産物の強みとして・・・本土の地域に比べて、温暖であるため、年間を通して様々な作物を栽培することができる。・気候の特性を活かして、本土より早く出荷できる農産物が多い。

○農産物の弱みとして・・・石垣牛やパインなどの特産品があるものの、農産物のPR不足が課題として挙げられる。・夏場は特産品が充実しているが、冬場は不足することが課題である。・近年は有害鳥獣対策に苦慮している。主に被害を出している鳥獣は、イノシシ、キジ、クジャク、カラスで、支援策として、石垣市鳥獣被害対策実施隊への捕獲依頼や、有害鳥獣捕獲支援活動事業で、ワイヤーメッシュを導入している。

(2) 市内での消費動向と県外への販売経路の状況について

○農産物及び加工品のブランド化及び販売拡大に関する取り組みについて

・基幹作物であるサトウキビは、約1,200名の生産者が、ハーベスタを使用して現在収穫期で収穫を行っている。・パインアップルは、拠点産地認定を受け関係機関が一体と

議員名【 北園 武広 】

なって産地づくりを目指している。パイナップルの収穫期は6月から7月、昨年に選果場を建設した。パイナップルのブランド化は地域全体で連携し、情報の共有・情報発信を図っている。・マンゴーは、平成20年にマンゴー研究会を発足し、栽培管理技術や流通、販売促進など組織を通して課題解決に取り組んでいる。・カンショは、平成19年に、石垣市かんしょ産地協議会を発足し、生産者の組織化及び品種の選定等を強化された。平成29年には石垣市甘しょ生産組合を設立し、加工業者等と連携してブランド化を目指され、生産戸数、作付面積、生産量も増加した。主な品種は、品名：沖夢紫で全体の7割以上の生産を占めている。・花卉は、(ジンジャー、ヘリコリア)で、沖縄県の拠点産地認定を受け、栽培技術向上及び安定生産に取り組む。・その他の農産物は、在来作物として、古くから生活の中で取り入れられているピパーツ。また、新庁舎建設時に、材木として至る所に活用されているリュウキュウマツがある。今後の産地としてPR活動、生産、加工、などに注力し普及推進する。特にピパーツは、香辛料として特徴的な匂いがあり、健康食品として注目を集めている。

(3) まとめ

石垣市の農業振興では、安定した農産物の生産を行ない、ブランド化や付加価値を付けるため、加工品の原材料として生産・販売するのではなく、青果物としての価値の見直しや、食品加工(6次産業)を産地一体として行ない、付加価値を高めるためPR活動に力を入れていかれるとの事である。そこで、沖縄県で栽培されていない本市農業の基幹作物である、トマトや晩白柚などの物流が可能であるか?石垣市の農政経済課に確認したところ、現状では冬場の農作物は量的に不足するので、九州管内との物流は難しいとの返答であった。今後の方向性としては、双方の生産者団体や関係機関が情報交換などで連携して、さまざまな課題をクリアし物流への意識が高まればと感じた。

自由民主党 礎・絆・和 視察所見

議員名【 北園 武広 】

- ◆視察日：令和5年1月13日（金）
- ◆視察先：沖縄県石垣市本原豊店
- ◆調査項目：石垣島における畳表の現状について

(1) 沖縄県におけるい草の概要について

○沖縄県で使用されている琉球畳の素材は、沖縄県で栽培されている、カヤツリグサ科「七島藎」(しつとうい)が使用されている。沖縄では、このカヤツリグサを「ピーグ」と呼んで、主に、沖縄県のうるま市で栽培されている。八代市で栽培されているい草との違いは、い草よりも3~4倍の太さで、竹ひごに近い硬さがありい草の5~6倍の強度があり、耐久性が高いのが特徴である。硬めの素材であることから、夏場はひんやりと心地が良く、使い込むほど艶が出るものの特徴である。(暑い沖縄で栽培され、琉球畳として普及したのも理解できる。)畳表の需要は高い傾向にある。

(2) 本原豊店の概要について

○本原豊店は、1946年に石垣島で創業され、八重山諸島全域の畳工事を請け負っておられる。2011年に、三代目に事業継承した後は、ピーグとミンサー柄畳縁にこだわった畳を地域の方々へ提供されている。「世のため人のため、喜びをともに」を企業理念とし、自家栽培で石垣島産い草「八重山育ち」の生産・販売にも取り組まれている。

・沖縄本島うるま市で生産されている「沖縄県産ピーグ(い草の沖縄方言)」は、近年では農家の高齢化等の理由により生産量は減少の一途をたどり、貴重な県産ピーグの衰退に危機感を抱かれて2013年に、うるま市のい草農家さんから株分けをしてもらい、沖縄県産ピーグの新たな担い手になるべく、5年かけて試行錯誤を繰り返し、2018年に初めて収穫された。現在でも、手作業で虫や雑草を取り除き、最低限必要な肥料のみで栽培するなど、なるべく自然に近い状態での生育を心がけておられた。また、少しずつ栽培面積を増やすことで、問題となっている耕作放棄地の解消にも役に立ちたいと考えられている。

議員名【 北園 武広 】

また、畳縁にも拘って石垣島で広く親しまれているミンサー柄を、本原畳店オリジナル畳縁として使用されている。

・2019年には、「畳嫁」という畳雑貨のブランドを立ち上げられ、「雪駄」や「ポーチ」、古ゴザをリサイクルした「畳嫁ゴザ」などのオリジナル商品の開発にも取り組まれている。更には、「畳のことを知って欲しい」をコンセプトに、小さなお子様から参加できるワークショップの開催を不定期ながら行われていて、畳文化の認知向上や畳表の需要拡大に向け、鋭意努力されている。

(3) まとめ

今回の研修で、沖縄県で古くから生活の中で活かされている、独特な畳文化にふれる事が出来て、あらためて日本住宅に使われる伝統的な床材としての、価値の再認識と新たな発見ができた。

・また本市は、日本一のい草の産地であると共に、日本の畳文化の認知向上や需給に対する大義を抱くべきであり、守る意識を強く持つことが重要であると感じた。

引き続き、生産者及び流通から販売までの関係者団体との、情報交換等を通じた連携強化を図り、い草の安定生産や八代産畳表の需要拡大などに取り組む必要があると感じた。

自由民主党 礎・絆・和 視察所見

議員名【 木村 博幸 】

- ◆視察日：令和5年1月11日（水）時間：午後2時30分～4時00分
- ◆視察先：沖縄県糸満市
- ◆調査項目：農業の振興について、観光・リゾート産業の振興について

（経済部 観光・スポーツ振興課：新垣行則課長）より観光・リゾート産業の振興について
パワーポイント画面印刷（36頁）を使って説明あり。

- ・外国クルーズ船の受け入れは無く、誘致なども行っていない。県内では那覇港、本部港（国頭郡）、平良港（宮古）、中城港（沖縄市海那）の4カ所で受け入れている。
- ・コロナ禍前は主に火曜日に大型バスでインバウンドの客が糸満市内の飲食店・焼き肉店に来客があったが、行政としては誘致など積極的にやっていない。
- ・外国人対応としては、市内の主な観光スポットに多言語看板の設置や、令和3年に「道の駅いとまん」にWifiやデジタルサイネージ（ディスプレイに映像や文字を表示する情報・広告媒体）を設置したとの事。
- ・糸満の二大行事として旧暦の5月4日に「糸満ハーレー」と旧暦の8月15日に十五夜行事として「糸満大綱引き」が行われている。この二大行事は、歴史も古くハーレーに至っては約600年の伝統行事。近年、この二大行事は観光客行事として集客性が増している。
- ・大綱は全長180m総重量10トン直径1.5mと巨大であり、作成については町内の保存会を中心に市内の小・中学校に出向いて生徒らを指導しながら作成し、二週間前になったらそれぞれの学校で作った綱を持寄り、それを合せて大綱を練りあげて作っている。伝統文化の技能継承も毎年キチンと行われており、保存会としてはその生徒らがいずれ指導者となるので後継者不足は問題無い。地域・行政・教育委員会が一体となって作り上げる素晴らしい伝統文化だと感心した。
- ・大綱の材料となる10トンの稲わらは調達が困難なため2割程度が県内産、残り8割程度を中国より毎年購入している。使用済となった大綱は、沖縄の家の屋根材である漆喰に混ぜたり、堆肥業者が引取りに来ていて、行政の事業でもSDGsの取組みが推進されている中、昔から完全リサイクルが出来ている事業であり感心した。

- ・糸満ふるさと祭りが1月の第二土日となる14～15日に市役所西側広場にて開催される。今年32回目で、市内の各種機関・団体の連携と調和を密にして市民文化の発表の場を創り、活力のあるまちづくりを目的に実施されている。両日とも午後3時以降夜の8時迄で、多くの市民の参加が有り、マグロの解体ショー、夜は伝統芸能の「エイサー」、やフィナーレは花火の打ち上げで盛りあがる。
- ・他の行事も含めて、地域の気候の特性から1月でも寒くなく、真夏を避けた季節に大きなイベントが行われているので観光客の季節分散が出来、トップシーズン以外でも集客が見込め、市観光協会を中心に更に観光振興に力を入れれば年間を通してホテル・旅館業や他の観光業にとって安定収入が見込めそうである。
- ・観光業、商工業に対する補助金制度では、毎年500万円を糸満市観光協会へ育成補助金として助成。その他は八代市と同じで「新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金」を活用して令和2年から4年までに観光業に9事業、商工業に3事業行われていた。(内容は省略)
- ・八代市に参考になりそうな取り組みについて挙げると
 - ①「貸切りバス利用促進事業」で、これは市内の学校が遠足や修学旅行などで利用するのに補助金を交付している。コロナ禍で低迷している貸切バス業者の支援が目的で、通常40名の乗車定員に対しコロナ禍で蜜を避けるため半分の20名乗車とする事とし、乗り切れなかった分の追加バス分を助成する事業であった。八代市内の小・中学校でも直ぐに活用できる事業で、修学旅行は勿論、そのほか市内や特に中山間部の学校からくまモンポートや球磨川河川敷・遥拝八の字広場、日奈久温泉といった日頃クラスメートと訪れる事が無い所への遠足も良いのではと思った。
 - ②「グリーンモビリティ導入事業」で、これは電気自動車であるゴルフカートの7人乗りを購入し、高齢者を対象に近くの方々と乗り合わせて活用してもらいアンケートを実施して調査を進め、今後拡大を検討するとの事。八代市内でもゼロカーボンにも合致している事業であり、何よりも市内循環バス路線以外の高齢者の方々には朗報ではなかろうか。

(経済部 農政課：タマクラ氏及びイワミ氏) より、糸満市の農業概要について当日の説明資料(5頁)と「6次産業化地産地消推進戦略」の配布資料(20頁)を使って説明あり。

- ・糸満市の概要については省略され、次に農業生産品目の紹介があった。主な作物はサトウキビ、野菜、花卉、果樹、肉用牛が盛ん。国営の地下ダムかんがい整備によりかん水利用が容易に利用できるようになり、施設栽培を中心にゴーヤー、レタス、ニンジン、パッションフルーツ、小ギク肉用牛(子牛)、マンゴー、きゅうりの8品目は県より農林水産戦略品目として拠点産地の認定を受けて生産されているとの事。
- ・しかし、農産物の品質向上、耕作放棄地等の課題も多く、生産基盤の促進や栽培施設の整備等が求められ、また一方では多様な資源活用のため廃プラ処理や畜産廃棄物の利活用など更なる充実を図る必要が出てきたと説明があったが、これらの問題は全国何処においても農業生産者に当てはまる全国共通の課題であると思った。
- ・肉用牛(子牛)では市場のニーズに合わせた肉質とするため優良母牛の更新事業、増加傾向にある山羊の生産推進、これら生産技術の確立と施設の導入が求められていた。今後の農業振興を図るポイントとして、持続的農業、国際規格への対応、スマート農業などの分野への展開が必須と説明があったが、これも前項と同様、現在においては全国共通の課題となっている。
- ・農業の振興について、スマート農業について説明があったが、今般にあっては一般的な取り組みのため内容は省略。
- ・スマート農業に今年度はキュウリを選定して、補助事業としてクラウドを活用した養液土壌栽培の実験実証をされていたが、ICT農業の申請に13軒の農家しか応募がない状況で、引続き魅力ある情報発信しながら普及につなげたいとの事であった。この少ない申請の原因は、主に生産者の高齢化によるもの。高齢化は全国的な問題であり、ここでも若手後継者対策を強く望まれていた。
- ・「地下ダム」について資料を基に説明があったが離島沖縄独自のものか初めて地下ダムを知った。沖縄はサンゴ礁堆積物の隆起によりできた台地で、多孔質で保水能力に欠ける琉球石灰岩のため地下ダムの整備が今後も継続して行われるとの事。今後整備が進めば、温暖な気候と相まって年間を通して工夫・野菜の生産が出来、前項のICT農業を取入れ、併せてGAP認証を取り農業振興を推進すれば、作付面積当たりの収穫量は全国トップレベルで魅力ある営農が盛んな地域になれると思った。

自由民主党 礎・絆・和 視察所見

議員名【 木村 博幸 】

- ◆視察日：令和5年1月12日（木） 時間：午後1時55分～3時30分
- ◆視察先：沖縄県石垣市
- ◆調査項目：石垣市における農業の現状と課題について
市内での消費動向と県外への販売経路の状況について 他

（農林水産商工部農政経済課：松川英樹課長）より、石垣市における農業の現状と課題について、タブレットを使用して説明あり。（会場にモニターも2台設置あり）

- ・石垣市は日本最南端・最西端の市で、亜熱帯海洋性気候、平均気温は24.3℃。基幹産業はサトウキビとなっていたが、農業や生活を行う上で、どうしても避けて通れない巨大台風（風速70m級）が通過する海域にあり台風対策は大変だと思う。
- ・土壌は国頭マージと呼ばれる酸性土壌で果樹が盛んであり、中でもパインアップルはH19年8月に県の「拠点産地認定」を受け、生産農家・行政・関係機関が一体となって他産地と差別化できる産地づくりを目指して栽培されていた。
- ・パインアップルのPRや販売会の取組みでは、イオンナゴヤドーム前店では市長自ら被り物を装着してPRするなど、正に市を挙げての取組度が良く伝わった。
- ・コロナ禍で学校給食での消費が落ち込み、そこで取った対応策が実を袋詰めすることで、これが東京の学校で給食に出され、新たな需要を生んだ。これこそピンチをチャンスに変えるアイデアだと感心した。今後は給食センターと連携して、地産地消の拡大へ展開策と抜け目がない。
- ・マンゴウも果樹の中では力を入れている。取組みは、八重山マンゴウ研究会を立上げ組合を組織して栽培されている。
- ・販売会では2日間で完売する人気を誇っており、石垣の付加価値でブランド化されゆうパックでの出荷式には市長が毎回立ち会われている。
- ・農産品の輸送関係では、コロナ禍で需要が減り飛行機の減便があった。しかし、昨年からの交付金活用で航空便を6便チャーターし、クロマグロや米（ひとめぼれ）、パイン・マンゴー等を混載して出荷し需要拡大に繋げている。尚、チャーター便はコンテナ30個の大型輸送便でコスパに優れる手配がされていた。

- ・また、今後の展開は東南アジアを視野に販路拡大を検討中とのこと。
- ・花卉では H19 年度にヘリコニアとジンジャー類が県の「拠点産地認定」を受け栽培されており、大型の多年草でオリンピック式典等の花材や卒業式の花材として使用されている。
- ・その他、リュウキュウマツは石垣には松くい虫がいないため木材として綺麗な温かみのある木目などで注目を集めている。新しい新庁舎にも天井や壁、テーブル、物置台や議場内装、登壇席や議席など至る所に使用されていた。
- ・その他でもう一つ、ピパーツは香辛料として、健康食品として(血圧を抑える効果)注目を集めており、地産地消お弁当に使われたり、高校生が自生ハーブとして弁当を作る例が紹介された。
- ・有害鳥獣対策では琉球イノシシとクジャクがある。国補助 100%でワイヤーメッシュを毎年購入し 5Km/年の距離を施工して対策している。また、ITC 罠も設置。
- ・イノシシの駆除として遠隔操作型のおりを設置し餌をおいて誘導しているが、よく捕れるのでこのおりの近くに猟師が罠を仕掛けるためイノシシは敬遠し次第に捕れなくなる。農家の方々のため猟師と有害駆除隊との協力・理解が必要と思う。
- ・クジャクは観光ホテルから逃げ出して野生化して繁栄しており野菜、スイカ等で被害が出ている。また、たまに白い孔雀もいるが、これは固有種のため殺処分できないそうである。
- ・その他、畜産農家が破綻して牛が野生化し、自然繁殖して増え農作物に被害が出ている。しかし、有害鳥獣ではないので駆除できず。人的被害の恐れがあり、立ち入り禁止区域を設けたりしている。しかし、手続きを経て駆除隊で駆除され、全てが焼却処分された。
- ・クジャクと野生牛については繁殖して個体数が増える前に捕獲することが必要と感じた。倒産や破綻の情報が有れば、早期に畜産動物と鳥獣類も併せて差押えの対象にならないものだろうか。

(農林水産商工部畜産課：本原弘也課長)より、石垣市内での消費動向と県外への販売経路の状況他について、タブレットを使用して説明あり。(会場にモニターも2台設置あり)

(畜産について)

- ・肉用牛の生産を中心に、乳用牛、豚、採卵鶏・ブロイラー、山羊等であるが、畜産の農業生産額は98億2千万円の72.6%で、そのうち肉用牛は農業生産額の68.9%を占める。
- ・八重山家畜市場では毎月700頭前後が上場取引されるが、先月1000万円の値が付いた牛もいてニュースにもなったほど国内有数の和牛の子牛の繁殖地域として位置づけられている。
- ・H13の沖縄サミットの晩餐会で各首脳に食され有名になり、H20地域団体商標の「石垣牛」を特許製品に登録認可され更に需要が伸びた。
- ・「石垣牛」ラベルについては、石垣市肉用牛生産協議会で定義(肥育期間、出荷期間、肉質等級)を満たしたものに発行されている。
- ・交付金関係では「石垣産牛生産推進事業(沖縄県振興特別推進交付金)」と「新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金活用事業」とで合計12事業が組まれていた。(詳細省略)

(現状と課題について)

- ・畜産農家の生産者が高齢化しており併せて後継者問題もあり、今後の中長期的な取組が困難。
- ・消費拡大に併せ新たな販路では、海外への販路を検討中。世界的な和食ブームに乗せるには更なる知名度UPが必要と感じ、グローバルGAP(国際認証規格)とGI(地理的表示保護制度)の認証・登録が必須だと思う。
- ・家畜糞の処理については堆肥への更なる利用拡大を検討。今般の肥料高の中、需要は更に増えるのではと思う。その一方、エネルギー高の今般では牛糞での固形燃料が注目を浴びそうで、石垣市肉用牛生産協議会で燃料加工所を独自で経営されると、新たな雇用を生み、生産者の労働負担が減らせると思う。
- ・その他、石垣牛の学校給食への活用は、給食センターでは食品衛生法上どうしても加熱する必要があり、メニューとして中々使いづらいとのことで需要拡大には今一步。個人的には、サイコロステーキなら給食センターでは容易に料理が出来るのではと思う。(子供は喜ぶも、予算的に厳しいが)

自由民主党 礎・絆・和 視察所見

議員名【 木村 博幸 】

- ◆視察日：令和5年1月13日（金） 時間：午前9時30分～10時00分
- ◆視察先：本原畳店
- ◆調査項目：石垣市における畳生産、加工・販売について

（本原畳店 代表者 本原正将氏）より、石垣市における畳生産、加工・販売について

- ・本原畳店は1946年に石垣島で創業され、八重山諸島全域の畳工事を請け負ってこられ、2011年に三代目に事業継承した後はビーグとミンサー柄畳縁にこだわった畳を生産されていた。
- ・取り扱っている畳表は八代品のほか、大分産カヤツリグサを裂いて織った畳と、ご主人自家製の石垣産ビーグ品。その他中国産も取扱いあり。
- ・品質は見目の違いでイ草の茎が大きいビーグは硬くて頑丈そう。吸湿性や浄化作用については分からなかった。耐久性（摩耗）は見た目通りで、強いと説明があった。
- ・ジャスミンの糸は麻糸かとの質問に、綿ダブルとのこと。
- ・畳の需要が減る中、新たな販路を見つけられており、それは棺桶の床板に敷かれる布団を畳に替える取組で試行錯誤されていた。日本人として素晴らしい発想だと思った。
- ・石垣市の畳屋は4軒。
- ・イ草栽培については県内でご主人ただ一人で、作付面積は100坪で今年8年目になられるとのこと。作業は全てご主人一人でされるとのこと。倉庫にはバインダーが置いてあった。
- ・今後の事業予定で、カヤツリグサの畳表を石垣島で栽培し、元祖、「琉球畳」を復活させたい。カヤツリグサを畳表にするまでの作業は、就労継続支援施設の利用者を活用し、ゆくゆくは地域の産業として石垣島に根付くことを目標にされており、素晴らしい事業案と思った。
- ・店内作業場の片隅に、イ草生産者である植柳地区の柳内ご夫妻の若い時の写真があり参加者から懐かしさ〜と歓喜に沸いた。

議員名 [中村和美]

◆視察日：令和5年1月11日（水）

◆視察先：沖縄県糸満市

◆調査項目：農業の振興について、観光・リゾート産業の振興について

◎農業振興について。 総農家数956戸（販売農家

数612戸）耕地面積1,410ha。農産出額52億

円（2020年統計）サトウキビが基幹産業であり

野菜、花卉、果樹、肉用牛等が盛んなこと、

中でも、ゴーヤ、レタス、ニンジン、パッションフルーツ、

小ギク等は、沖縄県より、農林水産戦略品

として、指定産地の認定を受けている。

◎スマート農業機器導入事業について

平成29年より、スマートフォンに対応した、オンライン

決済や若者へのプログラミング学習による、IT

関連の育成等を4市町（糸満市、沖縄市、宮古

市、竹富町）と9社（沖縄セルラー他8社）の

IT関連企業で立ち上げて、温度管理や

議員名【 中村和美 】

◆視察日：令和5年1月11日（水）

◆視察先：沖縄県糸満市

◆調査項目：農業の振興について、観光・リゾート産業の振興について

ハウス内の見回り等、時間が余った分、他の作業の効率化を計る計画であった。小ぎ7農家60戸の機器購入費を令和3年度に市は予算計上したが参加農家は、13戸だったとの事。今後、IT活用や 持続的農業、国際規格への対応、スマート農業等の新たな分野への施策が必要課題との事であった。ハ代も、農業就労者の高令化が進んでいるので、早い対策が必要と感じた。

◎観光リゾート産業については、

外国クルーズ船の受入れや、文化会館、糸満二大行事（糸満ハレ、糸満大綱引き）で、観光客を呼び込むとの事でした。

議員名〔中村 和美〕

◆視察日：令和元5年1月12日（木）

◆視察先：沖縄県石垣市

◆調査項目：石垣島における農産物の現状と課題について
市内での消費動向と県外への販売経路の状況について 他

◎石垣島における農産物の現状と課題について

主な農産物は、サウキビで就労者、約1200名

12月～4月収穫期で約10万トン生産との事、

次にパインアップル、栽培面積157ha、生産

額2億5,400万円、10アールに2トン（2年ごと63トン

収穫）6月末～7月下旬収穫期が味が乗っている

との事、他に5種類のパンがあり、ピーチ

パインは、桃の香りのパインで市の45%の面積

で栽培されているとの事、同格がハウス栽培

のマンゴー、栽培面積247ha、収穫量140トン

生産額2億5,000万、1箱当り、1,000円～1,200円

◎畜産については、肉牛、乳牛、豚の育成で、

自由民主党 礎・絆・和 視察所見

議員名【 中村 和美 】

◆視察日：令和元5年1月12日（木）

◆視察先：沖縄県石垣市

◆調査項目：石垣島における農産物の現状と課題について
市内での消費動向と県外への販売経路の状況について 他

年間98億2,000万円、農業生産額72.6%を占めているとの事。市も育成に力を入れており、肉用牛の石垣牛、去勢後、24~35ヶ月、×2牛、24~40ヶ月の出荷範囲内とし、生産推進事業として、今年度250頭に、1頭50,000円を補助。優良母牛には、購入額の $\frac{1}{2}$ 以内、40万円を上限に今年度85頭×40万円、高令繁殖母牛淘汰費農家へ1頭2万円の補助制度があり、お肉券として入学時やお祝い事に利用されているとの事。課題として、イシシ被害、インドクジャク等の作物被害が増えている、柵や檻の設置費用の補助を行なっているとの事でした。

議員名〔 中村和美 〕

◆視察日：令和元5年1月18日（金）

◆視察先：本原畳店

◆調査項目：

市内に畳店4店舗あり、本原畳店へ見学に伺いました。小さな工場で二人の職人様が畳機械に何って、頑張っておられました。この店は7年前より、100坪の農地にイ草を生産しているとの事、沖縄は台風のメッカで鉄筋コンクリートの建物が殆んどであるが今頃は木造作りも増えたとの事。変り畳として「いっせ畳」と云う。楯に敷く畳も作っておられ驚きました。課題としては、イ草農家が12〜3軒あるが高齢化が進んでいるとの事でした。畳の製品は、ていねいに、立派な畳が作られていました。

議員名【古嶋津義】

◆視察日：令和5年1月11日（水）

◆視察先：沖縄県糸満市

◆調査項目：農業の振興について、観光・リゾート産業の振興について

○ 農業の振興について

(糸満市で栽培される農産物の概要)

サトウキビを基幹に、野菜(ゴーヤー、レタス、ニンジン、きゅうり)

花卉(しきり)果樹(パッションフルーツ、マンゴー)肉用牛(子牛)などが

盛んで、国営地下ダムかんがいの整備により、かん水利用が容易に

行われるようになったため施設栽培を中心に多品目生産が特長。

(スマート農業機器導入事業(KDDIとの連携、取組))

農作業の効率化を図るため、小菊農家の夜間帯の電照切れ

を確認するための見回り作業と、マンゴー農家のハウス内の温度

管理を行うための確認作業の時間削減を目指し、KDDIウェブ

コミュニケーションズと協力し、畑の温度、照度の異状を探知して

農家の携帯に通知する農作業支援通知システムの実証実験

を平成30年にスタート、農作業の効率化が確認できた。

議員名【古嶋津義】

◆視察日：令和5年1月11日（水）

◆視察先：沖縄県糸満市

◆調査項目：農業の振興について、観光・リゾート産業の振興について

(農作物の販路拡大、流通、輸送コスト)

沖縄県が県外に出荷される県産農林水産物、県内外に出荷される地域特産物について、沖縄県の地理的な条件不利性の改善を通じて直近他県の産地との競争条件の平準化を図るとともに、基幹産業である農林水産業の持続的な維持増進を図るため、(1ヶ当り、33円)県の補助事業が実施されている。

(肥料高騰などに対する補助金制度)

市内在住の農家(個人及び法人)に対して、売上高が過去3年間のいずれかの同月に比べて30%減少し、かつ今後事業を継続する意思がある方に対して、個人一律6万円、法人は12万円支援。牛乳の出荷制限の影響を受けた酪農家に対して飼料購入費(1頭あたり)72,206円を支援。

自由民主党 礎・絆・和 視察所見

議員名【古嶋津義】

- ◆視察日：令和5年1月11日（水）
- ◆視察先：沖縄県糸満市
- ◆調査項目：農業の振興について、観光・リゾート産業の振興について。

（地元農産物の地産地消及び「学校給食等への取組」）

地元農林水産物を紹介するパンフレット、ポスター等の作成や市ホームページの活用等により、地場産物の周知度の向上と購買意識の向上が図られている。学校給食への取組としては、5/8のゴーヤの日や12/11まゆりの日、1/8のにじみの日にあわせて、学校給食へ食材提供や市内小学校での出前講座、収穫体験が行われている。又パッションフルーツを使ったゼリーの提供を行い地産地消へ取組んでいる。

（加工品（食品、工芸品）ブランド化に対する取組）

異業種交流（6次産業化）を促進し、開発商品の推奨・PRを行うことによりブランド化を目指し、販路拡大を図っている。

〔認定された事業〕 ①モズクを活用したスイーツ、調味料の加工食品開発・製造・販売、②100%県産マンゴーを原料とした

自由民主党 礎・絆・和 視察所見

議員名【古嶋津義】

◆視察日：令和5年1月11日（水）

◆視察先：沖縄県糸満市

◆調査項目：農業の振興について、観光・リゾート産業の振興について。

マシゴビューレー等、加工品の開発及び通年販売の取組
④「ぶちぶち海ふどう」ブランド確立と年々伸びた安定生
産、安定出荷等が取組の実績。

○観光・リゾート産業の振興について

（外国クルーズ（インバウンド）の受入、対策及び誘致）

外国クルーズの受入や誘致については、具体的な事業は
特に行っていない。

（観光資源の発掘、情報発信）

市のゲートウェイの機能を備えた「シャボニ玉石けんくろ糸満」は
文化・平和・観光の複合施設となっている。又「糸満市場いと
ま〜る」も観光施設として機能している。糸満ハーレー、
糸満犬綱引は観光行事としても人気がある。轟の壕、平和
礎は平和学習に活用されている。市内にはビーチが多数

自由民主党 礎・絆・和 視察所見

議員名【古嶋津義】

◆視察日：令和5年1月11日（水）

◆視察先：沖縄県糸満市

◆調査項目：農業の振興について、観光・リゾート産業の振興について。

あるが、大度浜海岸はサーフィンの人気海岸。波ノ次郎

の上陸記念海岸として有名である。

（観光業、商工業に対する補助金制度）

新型コロナウイルス感染症対応地域創生臨時交付金

や沖縄振興交付金を活用した、観光業、商工業に対する補助金制度は潤沢にある。特筆すべきは「観光誘客

促進事業」プロ野球「ロッテ」、サッカー「ベガルタ仙台」の

キャンプ誘致による観光誘客事業である。

議員名〔古嶋津義〕

◆視察日：令和 5年1月12日（木）

◆視察先：沖縄県石垣市

◆調査項目：石垣島における農産物の現状と課題について

市内での消費動向と県外への販売経路の状況について 他

○石垣島における農産物の現状と課題について

（石垣島で栽培される農産物の概要）

サトウキビ、茶樹、ハイニアップル（3種類）、マンゴー（ハウス

栽培が主流）、カンショ、ジンジャー、ヘリコニア（花卉）、

リュウキュウマツ、ヒノキ、内用牛（石垣牛）、乳用牛、

豚、鶏（卵）等、石垣島の気候・風土にマッチした

農業経営がなされている。農業生産額の68%は肉用牛。

（県外からの農産物の流入状況）

本土に比べて、温暖であるため、1年中を通して様々な作物

が栽培でき、また、気候の特性を活かして、本土より早く出荷でき

る農作物が多く、^{他県からの}流入はあまりみられない。

○市内での消費動向と県外への販売経路の状況について

（地産地消の動向）

自由民主党 礎・絆・和 視察所見

議員名【古嶋津義】

◆視察日：令和5年1月12日（木）

◆視察先：沖縄県石垣市

◆調査項目：石垣島における農産物の現状と課題について

市内での消費動向と県外への販売経路の状況について 他

石垣島産の農産物を活用した商品開発（コロッケ等）の

食品加工（6次産業）を行い、農高生×JA女性部×島ITP

と連携し、「地産地消お弁当」等産地一体として

地産地消に取り組んでいる。花卉のジンジャ、ヘリコニア

は県立高校卒業の花材として、又、父の日、母の日の消

費拡大事業を展開している。

（学校給食などへの提供状況）

カンショ（沖蒨紫） 肉牛（石垣牛のすきやま）などを

市内学校給食へ食材として活用。

○農産物及び加工品のブランド化及び販売拡大に

関する取組について

（加工品、ブランド化に対する貴市の取組）

生産組合や協議会・研究会等による品評会や

自由民主党 礎・絆・和 視察所見

議員名【古嶋津義】

◆視察日：令和5年1月12日（木）

◆視察先：沖縄県石垣市

◆調査項目：石垣島における農産物の現状と課題について

市内での消費動向と県外への販売経路の状況について 他

研修を通して、ブランド化や付加価値を高める

活動が行われている。

（海外への販路状況）

九州・沖縄サミットの晩さん会で、石垣牛が食され、

名声が高まったことなど、石垣島の知名度を活用。また

入城旅客数が年間150万人（外国人客を含む）ほど来島

するため、インバウンド消費など観光客をターゲットにするのができる。

（PRの手段等）

ふるさと納税の返礼品として、又、イオナゴヤ店・

池袋サンシャイン店・岡崎市での物産展等。安定した

生産を行い、ブランド化や付^加価値をつけるため、加工品の

原料として生産、販売するのではなく、青果の価値の見直しや、

食品加工（6次産業）を産地一体として行い、付加価値を

高め、農産物のPR活動に努めている。

議員名〔古嶋津義〕

◆視察日：令和5年1月18日（金）

◆視察先：本原畳店

◆調査項目：

本原畳店は、1946年に石垣島で創業し、八重山諸島全域の畳工事を請け負ってきた。2011年に3代目に事業継承した後は、ビーグとミンサ柄畳縁にこだわった畳を地域の皆様に届けている。（石垣市の畳店舗数 ← 4店舗）

○ビーグの特徴

「ビーグ」は沖縄の方言で「草」のことを言う。本土の草と違って、太くて丈夫、1本の太さは2〜3倍になる。長さは1m20cmくらいで短いので、倒伏防止の綱かけは必要なし。また、泥ぞめをしていないという特徴があり、太さが太い分、畳にした時の耐久性、弾力性に優れている。草そのものが、調湿作用や断熱作用があるので、沖縄の気候に適している。しかし、

議員名〔古嶋津義〕

◆視察日：令和5年1月18日（金）

◆視察先：本原畳店

◆調査項目：

農家の高齢化等の理由により生産量は減少の一途をたどり、貴重な沖縄産ビークの衰退に危機感を抱いているとのこと。現在市営住宅の畳張り替え事業では、熊本県産農林規格2等を使用して

いる。

Q「琉球畳」の復活へ

本原畳店ではカヤツリグサ（現在、大分県国東半島で栽培されているニツト表（道場畳）の栽培も行っており、

カヤツリグサを使用した「琉球畳」の復活作業を

行っている。カヤツリグサの畳は、ビークと違った素材

は風合いが魅力で、カヤツリグサの畳表を石垣島で

栽培し、元祖「琉球畳」を復活させたとのこと。

また、カヤツリグサを畳表にするまでの作業は、就労

議員名【古嶋津義】

- ◆視察日：令和 5年1月18日（金）
- ◆視察先：本原豊店
- ◆調査項目：

継続支援施設の利用者の力を借りながら
進めてゆき、将来は地域の産業として、石垣島に
根付くことを目標にしている。